

# 及川幹雄逮捕で寄生虫芋づる逮捕？怯える寄生虫・刑事たちwww

🕒 4月 17, 2015 📁 社会問題 👁 8,404 Views

## 目次

- 1 警視庁岡島は及川に接待されていた？
- 2 国際新聞対策と称して金をネコババした大津洋三郎
  - 2.1 及川幹雄氏から大津洋三郎氏への金の流れ。佐藤昇氏が真相を吐露
- 3 みずほ元頭取の塚本隆史と税理士の本間美邦、そして麻生太郎・巖谷本願
- 4 本間美邦はみずほ銀行の裏金担当者
- 5 及川幹雄を恐喝していた本間吉
  - 5.1 オススメの記事です

👍 +0 🗑 -0 0 票

この記事を読むのに必要な時間は約 13 分です。

2

SHARES

## f 警視庁岡島は及川に接待されていた？

🐦

LINE

G+

今、及川幹雄逮捕で、周辺者がビクビク、ガクガク、ブルブルでおしっこちびって、夜も眠れないという。

というのも、及川が全てをばらしてしまうのではないか、そうなれば、自分たちも逮捕されてしまうほど、悪いことを散々してきたからだ。

悪いこととは、とどのつまり、及川からさんざん金をむしっていたのだ。

事情通によると及川幹雄ががじられたのは、判明しているだけでも合計 2 億 7 千万円だという。

その舞台となったのは、新宿高島屋の場外馬券の買収案件だ。

これによって、及川幹雄は何十億もの詐欺で訴えられているのだが、それを口実に高尾らに合計二億七千万むしられたのだという。

特に関係者の警視庁岡島警部への怒りはハンパなく、なんでも、正義気取りで音頭とってたくせに、裏では銀座セントポーリアで及川にカネを出させて、豪遊していたのだという。

ちなみにこの岡島警部は、敬天新聞さんを見ると、後藤組対策班だったようですね？こんな人間は警察の品格を落とすゴミであり、そっこく警察からたたき出すべきであろう。



## 国際新聞対策と称して金をネコババした大津洋三郎

さらに、大津洋三郎は、及川幹雄から1億5000万円をむしっていたという。その名目は、国際新聞対策だという。

その件に関しては、敬天新聞が詳しく載せている。

### 及川幹雄氏から大津洋三郎氏への金の流れ。佐藤昇氏が真相を吐露

やはりみずほ銀行の及川幹雄氏を通じて大津洋三郎氏に金が流れたのは事実のようだ。金の流れという物は渡す人がいて、受け取る人がいる。金が独りで歩くわけではない。まー相手を陥れる、と言うこともあるので、取材したことをありのまま書くことにするから、取り敢えずの判断は読者にお任せしたい。

先日までの記事で「S」と表現していた人物の名前がわかったので、そのS氏に連絡を取ってみたら、詳しい話が聞けた。S氏は佐藤昇と言って、本職は金融関係の仕事をやってるそうで、週刊報道特集というサイトの代表も勤めているそうである。その佐藤氏の証言を紹介する。

#### 質問1 及川氏から頼まれてお金を大津氏に運んだ時期は？

- ① 1回目 平成24年1月上旬 1億500万円  
週間文春中西、国際新聞、敬天、他、対策費として
- ② 2回目 1月下旬 1千万円  
週刊文春中西の追求が止まった謝礼
- ③ 3回目 3月 5千万円

(偶然かも知れませんが敬天か国際新聞の追求が止まっていた時期ではないか？と指摘しています)

①②は自分(佐藤氏)が及川氏から頼まれて運んだので、大津氏に渡ったのは間違いない。

注・この受け取る理由であるが、「自分(大津)が高尾昌司(本名、正志)に1億500万円を貸している。その債権を買ってくれるように及川氏に言ってくれ」と言われたそうで、その理由で持って現金を大津氏に運んだそう。及川氏は大津氏の債権を買う理由などないわけだから、業師の大津氏にしてみれば、この事件がめくれた時の対策だったのだろう。佐藤氏は別途高尾氏との貸借があって、高尾氏を破産に追い込んだようだ。

③は、佐藤氏が及川氏から聞いた話だそう。及川氏の不正を最初に見つけ、及川氏を食いだしたのが高尾昌司(本名、正志)氏だったようだ。それを事件屋が嗅ぎ付けまた食いだした。

そこで及川氏は高尾氏に事件屋の排除を依頼。そしたら「それなら、Aがいい」とここで暴力団を紹介した。Aは及川氏に1億4000万円の融資を相談したそう。

ここで及川氏は「みずほ銀行の社員である自分が直接暴力団に融資するのはまずい」と思い、知り合いであった佐藤氏に相談し、佐藤氏の会社から貸したことにしてくれと言って1億4000万円を現金で渡したそうである。佐藤氏も一度はその話を受けたものの、暴排条例が厳しくなってきた時期でもあり、「これは不味い」と思っただけで次の日及川氏に現金を返しに行ったそうである。それで結局、お詫び料という形でAに300万円届けたそうである。

そういう事情は全く知らなかったが、私が記事を書きだした。また国際新聞も別ルートで質問状を出し、トラブル

それで佐藤氏が大津洋三郎氏に相談したそうだ。大津氏の使命は騒いでいる者の静止だったようだが、そこで一計を案じネコババして、知らんぷりだったようだ。

こんな話も出た。佐藤氏がサハダイヤモンドの株で儲かったという話を及川氏にしたら、及川氏が1億ほど金に余裕があるからといって、約1億2500万円分のサハダイヤモンド株の購入を佐藤氏に依頼してきたそうである。その後、佐藤氏は何かをきっかけに及川氏と縁を切ろうと思い、及川氏から任されていたサハダイヤモンド株を換金して及川氏に返金したそうだ。

結果的に換金した時にはサハダイヤモンドの株は下がっており、5500万円位になっていたため、及川氏は約7000万円の損になる。

その時のお金を再度5000万円大津氏に取られたと及川氏は言っていたそうである。これが③の5000万円なのだろう。

ここで疑惑を持ったので尋ねた。「何で株でそのまま返さないで、半分以下に下がっているのにわざわざ換金して返したのか？サハ株は偽造株券が出回ってる噂もあった。本当は買ってなくて、差額をピンハネしただけじゃないのか？」と。

そしたら「自分の名前で買っていたので、自分が売るしかなかった」というのが答えだった。もう一つ質問した。

## 質問2 「これだけ深く関与して、あなた自身は金を貰っていないのか」と尋ねたら

佐藤氏の回答

・及川氏から暴力団への利益供与を頼まれたことを切っ掛けに、及川氏の相談係となり親密になった。自分は「ミリオントラスト」という金融業者をやっているため、みずほ銀行と暴力団の仲介をした。

週刊新潮の「みずほ銀行が暴力団に利益供与していた」という記事の中に出てくる「とある金融業者」とは自分のことです。

・それから、文春の中西氏の取材について及川氏から相談され、大津氏に話を持って行った。佐藤氏は大津氏から中西氏を行かせると事前に知らされていたそうである。と言うことは佐藤氏と大津氏は元は仲間？

注・この大津氏の件で佐藤氏が謝礼を貰っていないのは、真珠宮ビルの整理資金として25億円を足がつかない方法で用意してくれるという及川氏の話信じて、これまで及川氏の相談にのり動いてあげていたそうである。結局25億円は嘘で終わり、ただ働きだったそうである。

これより以前に及川氏は高尾昌司氏に4000万円取られ困っていたそうである。これらの内容は全て当局、金融庁、新潮記者にも話があるそうだ。

12月3日午前10時より東京地裁で被害者がみずほ銀行と元行員である及川氏個人を訴える裁判を傍聴した。及川氏は来てないし、みずほはあくまでも及川氏個人の責任という姿勢らしい。

それならみずほ銀行は及川氏を訴えればよいものを、今のところ訴えていないようだ。及川氏自身は「みずほは私を絶対に訴えられない。私はそれだけの秘密を握っている」豪語しているそうだ。

ここまで言われて事件化できないなら、金融庁が乗り出して、強引に事件化して過去も含めた膿を出すしかないんじゃないの？

因みに裁判にはNHKも傍聴にきていたそうで、佐藤氏に取材していたそうである。事件がめくれる日も近いのかな。



## みずほ元頭取の塚本隆史と税理士の本間美邦、そして麻生太郎・巖こそ本願

しかし、上記の寄生虫は、実はどうしても奴らなのです。

及川幹雄逮捕によって、警視庁が頑張って逮捕していただきたいのは、塚本隆史と本間美邦なのです。

及川幹雄は、みずほの暴力団融資事件の際、オリコに飛ばされた。これは銀行をやめさせたという形を表向きはとっているものの、実は移籍のようなものだ。

それでこの及川幹雄を利用して、オリエントコーポレーションに迂回融資をして、設立されたのが、悪名高き、麻生巖のプラネットホールディングだ。

この設立ワズが二ヶ月後に400億円の迂回融資を通じて、オリコはプラネットホールディングの未公開株を購入している。

これによって、みずほは不良債権を整理できたというわけだ。

麻生巖のところに入った金は、帳簿上で327億円。それをみずほが平成25年3月決算時に帳尻を合わせた。

つまり、みずほと麻生の出来レースだ。

こういうからくりで、塚本は麻生太郎を利用したのだ。

実は麻生はこの時、金がなくて困窮していたので、まさにこの話は渡りに船だった。

この時、麻生巖は39歳の鼻たれ小便やろう。なんでこんなのが320億円を出して、ぎょうせい買えるのか？書類上、法的には問題ないかもしれないが、常識的には桁外れにおかしいことをしていることは明白だ。

そしてこの時に、麻生太郎に闇献金が行ったのだ。麻生巖はぎょうせいの件で生じた裏金を税務処理しているのだろうか？してなければ、脱税だ。

400億円を迂回融資したものの、398億円と訂正した。つまり2億円は巖へのお小遣いだ。

そして398億での買収、それから引き算して、74億円を懐にいれたということになる。未公開株売買であれば、株の売買によって分離課税20%払うべきなはずだ。



## 本間美邦はみずほ銀行の裏金担当者

さて、本間美邦について、改めてここでおさらいしよう。

及川幹雄逮捕で今一番寒いのはみずほ銀行元頭取の塚本隆史と麹町のみずほ銀行顧問税理士の本間美邦だ。

及川幹雄は塚本隆史元頭取の密命で本間税理士の手下となり、旧第一勧業銀行時代の宝くじの当たりくじを取りに来ない顧客の金「八重洲中央支店に隠匿されている裏金」を運用して旧第一勧業銀行系頭取経験者に闇配当の行為に及んでいた。

この闇配当の責任者が麹町のみずほ顧問税理士の本間美邦だ。

だからその手下の及川幹雄が逮捕されたとなれば、本間美邦が慌てるのも無理は無い。

及川幹雄は本間美邦の下で、みずほ銀行の闇の仕事をしてきた。

今回の及川の犯罪行為はある意味、及川の副業、アルバイトみたいなものだった。それが少々金額が膨らみ逮捕となったのだ。

及川は、みずほの弱みを握っていることもあり、誰も自分を逮捕できないであろうというおごりがあったのだ。



## 及川幹雄を恐喝していた本間吉

□同じ名前の本間吉は山口組旧後藤組組長後藤忠政氏の金庫番と巷で言われていた悪党で、及川幹雄の数々の悪行をキャッチして及川幹雄から平成23年ごろに1億8000万円から2億円の巨額な金をむしり取っている。

本間吉に及川を紹介したのは本間事務所に出入りしていた本間吉の配下の土井だ。

事情通の話しでは本間の爪の長さに痺れて及川は本間吉から逃げて同じ悪党仕事師の大津洋三郎にくら替えしたと言われる。

この本間吉が及川から金をむしったことは既に赤坂警察も警視庁も知っている。

但し、この当時及川幹雄が口を割らなかつたために、本間吉は助かった。然し今回及川幹雄逮捕で本間吉は及川幹雄が警察で口を割り何時自分が恐喝で逮捕されるか〃ぶるってる。

ブルブル震えて、おしっこもちびっている。



今回の及川幹雄逮捕の起爆剤となった六本木の医者を紹介したのは民主党元外務大臣の玄場光一郎の秘書とされている。この医者は東京地裁に訴訟を起こし平成25年9月ごろに判決が下りてます。みずほ銀行側の全面敗訴です。この時の被告人はみずほ銀行元頭取塚本隆史と及川幹雄です。

及川幹雄は六本木の医者のみずほ銀行本店の応接室に案内して六医者を信用させ金を搾取しました。当時及川幹雄はれっきとしたみずほ銀行本店審査第二部審査役です。大胆不敵な犯罪行為です。

これがみずほ銀行の実態なのです。

👍 +0 🗳️ -0 0 票

オススメの記事です

2018/1/13

及川幹雄逮捕で寄生虫芋づる逮捕？怯える寄生虫・刑事たちwww - 国際新聞社

株式会社一水工  
業 入札談合等関  
与行為防止法違反  
か！...

みずほコーポレー  
ト銀行の巨額損ざ  
りが発覚！コーワ  
リースで不良債権  
隠し...

塚田哲也が主導し  
たフィナクラブ詐  
欺事件の全貌と渋  
谷恵美子、伊藤久  
美子の関係...

前代未聞!!暴力団企  
業顔負け 親会社  
(リテック・コン  
サルタンツと  
(株) デュープレ  
ックス・ギャザリ

0

 Check

 Facebook

 Twitter

LINE Line

 Google+

**2 shares**

☺